The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本語と韓国語の受身表現 ： その対照研究
Author(s)	鄭, 秀賢
Citation	語文. 1980, 37, p. 12-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68666
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本語と韓国語の受身表現

―― その対照研究 ――

鄭　秀　賢

一、序

日本語と韓国語は、対照言語学的な側面から見て、非常に類似点の多い二つの言語として知られている。反面、音韻・文法・語彙など、あらゆる方面で、相当な相違をも見せている。両言語における親族関係も、未だに十分には分からないようである。

さて、本稿では、現代日本語と現代韓国語の受身表現において、それぞれの特徴が、どういうふうに表われているか、以下のいくつかの視点にしぼり、共時的研究として、対照してみたいと思う。

▽相（aspect）との関係において

▽使役表現との関係において

▽主語との関係において

二、文法形式の限定

日本語における、受身表現の文法的な形式は、接尾性助動詞といわれる「れる・られる」だけに限定して考えることが出来るだろう。これに対して、韓国語の受身表現（被動形）を作る方法は、次のように多様である。

1、接尾辞「이・히・리・기」[i・hi・li・ki] の添加。

例、 보다[boda]　（見ル）　→ 보이다[boida]　（見ラレル）

먹다[mɔkda]　（食ベル）→ 먹히다[mɔkhida]　（食ベラレル）

물다[mulda]　（カム）　→ 물리다[mullida]　（カマレル）

씻다[s'itda]　（洗ウ）　→ 씻기다[s'itkida]　（洗ワレル）

2、被動助動詞「지다・되다」[čida・tφda] を用いる。

3、接尾辞と被動助動詞とを用いた二重受身用法（1＋2）。

例、 보다→보여지다[bojočida]　（見ラレル）

먹다→먹혀지다[mɔkhjočida]　（食ベラレル）

물다→물려지다[mulljočida]　（カマレル）
씻다→씻겨지다[s'itkjočida]　（洗ワレル）

4、受身の意味を持つ動詞を補助動詞とする用法。

例、받다[batda]　（受ケル）
→칭찬받다[čʰingčʰanbatda]　（ホメラレル）
당하다[daŋhada]（当ル）
→창피당하다[čʰangpidaŋhada]（恥ラレル）
맞다[matda]　（当ル）
→도둑맞다[dodukmatda]　（盗マレル）
보다[boda]　（見ル）
→욕보다[jokboda]　（恥ジラレル）
먹다[mokda]　（食ベル）
→욕먹다[jokmokda]　（悪ク評判サレル）
듣다[dïtda]　（聞ク）
→꾸중듣다[k'ucuŋdïtda]　（叱ラレル）

のようであるが、3は、可能の意味としても用いられるし、4の補助動詞の場合は、本動詞として用いられても、受身の意味にとられる。例えば、「「칭찬을 받다」[čʰingčʰanïl batda]（ホメコトバヲ受ケル）」のような使い方も用いられているからである。

それゆえ、韓国語の受身表現は、1の接尾辞によるものだけに限定する説と、他の形式まで含めて考える説とに分かれているようであるが、本稿では、後者の立場に立って、広く考えてみたいと思う。

なお、日本語の「れる・られる」は、受身の外に、尊敬・自発・可能の意味としての用法も存在するのに対して、使役表現の文法形式には、全く別の形式である「せる・させる」が存在する。

しかし、韓国語の受身（被動）の接尾辞「이・히・리・기」は、使役（使動）の接尾辞としても用いられているので、注目すべきことと思われる。この接尾辞「이・히・리・기」が、受身として用いられているのか、使役として用いられているのかの判断は、文脈関係からなされるのである。

三、全般的な傾向
——迷惑の受身を通じて——

日本語は、ごく一部の例外（慣用句における制限など）を除くと、一般的に、ほとんどの動詞が受身形を持つと言えよう。これに対して、韓国語は、原則的に他動詞だけに受身形が見られるばかりでなく、受身表現自体が少ないようで、全般的に受身表現より直接的な能動態の方が、もっと好まれているのではなかろうかと思われる。

(1)①雨に降られてくろうをした。
②今、ここに彼に来られると困る。
③彼女は、子供に先に死なれて、気落ちしている。
④一晩中、赤ん坊に泣かれて、ちっともねむれなかった。
⑤君にそこに居られては、まずい。

(2)①空地に家を立てられて、子供たちは、遊び場を失った。

②母に恋人からの手紙を読まれて恥ずかしかった。

日本語においては、例(1)は自動詞の迷惑の受身、(2)は他動詞の間接的な迷惑の受身である。このように、日本語においては「迷惑の受身」がよく用いられ、独特のニュアンスを帯びた表現として、定着している。これらは、話し手のこまかい気持ちをうかがうことが出来る「日本語らしい日本語」とも言えるだろう。

韓国語は、このような迷惑の受身の表現形式を持っていないので、受身態ではなく、能動態そのままの表現の方が、自然な感じを与えるわけである。つまり、例(1)は、韓国語においては、

① 비가 와서 고생을 했다[bika waso kosengil hetda]

(雨が降ってくろうをした)

② 지금 여기에 그가 오면 곤란하다[čikïm jokie kïka omjon konlanhada]

(今ここに彼が来ると困る)

③ 그녀는 아이가 먼저 죽어서 제 정신이 아니다[kïnjonin 'aika mončo čukoso če čongsini anida]

(彼女は子供が先に死んで気落ちしている)

④ 밤새 어린애가 울어서 조금도 잠을 못 잤다[bamse olineka uloso čokïmdo čamil mot čatda]

(一晩中、子供が泣いてちっともねむれなかった)

⑤ 자네가 거기 있으면 재미없어[čaneka koki itsimjon čemiobso]

(君がそこに居るとまずい)

という。( )の中の日本文は、韓国語の直訳であるが、このように、能動態表現しか用いられないので、話し手の微妙な感情は、うかがわれないことになる。

しかし、他動詞の場合は、韓国語においても「もちぬしと所有物との関係」になると、日本語と同じく、主格助詞のほか目的格助詞を取って「～を＋他動詞の受身形」として用いられることがある(李文子氏一九七九論文参照)。この場合以外は、やっぱり能動態を用いるので例(2)は、

① 빈터에 집을 지어서 아이들은 놀이 터를 잃어 버렸다[bintoe čibil čioso aidïlïn nolitoilil ilo boljotda]

(空地に家を立てて子供たちは遊び場を失なってしまった)

② 엄마가 애인한테서 온 편지를 읽어 버려서 부끄러웠다[ommaka einhanteso on pjončilil ilkoboljoso buk'ïlowotda]

(母が恋人から来た手紙を読んでしまって恥ずかしかった)

このように、日本語と韓国語における受身表現は、動作の方向を前提として能動態と区別するものだけにとどまらない、さまざまな問題がとりあげられ、しかもかなりの相異点があることが予想されるのである。

四、相(aspect)との関係において

相との関係について考えるに当って、まず日本語で、自動詞と他動詞とが対立している動詞群に焦点を合わせて、韓国語と対照しながら考えてみたい。例えば、

（自動詞／他動詞）▽あく／あける　▽かかる／かける　▽とどく／とどける　▽つかまる／つかまえる　▽加わる／加える

等の類であるが、これらのような対立が、韓国語にはあまり見られないようで、右例は、

▽열다[jolda]　（他）（アケル）
▽걸다[kolda]　（他）（カケル）
▽닫다[datʰa]　（自）（トドク）
▽붙잡다[butčaoda]　（他）（ツカマェル）
▽더하다[dohada]　（他）（加ェル）

のように、かた一方しかないことになる。

したがって、他動詞は存在しても、それに対立できる自動詞は存在しない場合、その他動詞の受身形が、受身の意味以外に、自動詞としての意味にも用いられることになるようである。「あく・あける」の場合を、例に出してみる。

①（　○　）窓があいている。
　　自←テイル

②（　○　）窓があけてある。
　　他←テアル

③（○〜△）窓があけられている。
　　他・受←テイル

④（　×　）窓があかれている。
　　自・受←テイル

(i)（　○　）창문이 열려 있다[čʰagmuni jolljo itda]
　　他・受＋テイル　（窓があけられている）

(ii)（　○　）창문이 열려져 있다[čʰagmuni jolljočo itda]
　　他・二重受身＋テイル（　〃　）

(iii)（　×　）창문이 열어 있다[čʰagmuni jolo itda]
　　他＋テイル　（窓があけてある）

上例から見られるように、日本語では自動詞と他動詞が対立する場合に、自動詞の方は受身形が成立しないように思われる（例④）。それとともに、この場合の他動詞の方も、人為的な意味を強調する時以外は、あまり用いられず（例③）、おもに、

自動詞＋テイル（例①）
他動詞＋テアル（例②）

を用いる傾向があるように見える。

すなわち、例①の「あいている」は、「自然にそうなっている状態」を示し、例②③は、「人為的行為を前提としての状態」を意味していると言えよう。しかし、例③の「あけられている」の方が、普通の会話であまり使われない理由として、例②の「あけてある」の存在をあげることが可能であろう。両方ともほとんど同じ意味の役を果たすので、普通の会話では、より簡単で便利な言い方の「〜テイル」形のほうを使う、わざわざ受身の「〜ラレテイル」形を用いる必要が少ない、ということではなかろうかと思われる。

一方、韓国語においては、他動詞「あける」に相当する動詞

「열다」[jolda] は存在するが、自動詞「あく」に相当する動詞は存在しない。それで、「열다」[jolda] の受身形である「열리다」[jollida] あるいは、二重受身である「열려지다」[jolljočida] を用いることによって、日本語の「あく」動詞の役までをしなければならないことになる。

それに、韓国語には、存在詞として「있다」[itda] はあるが、「イル」と「アル」との区別をしないので「～テイル」と「～テアル」との区別も出来ないわけである。したがって、「あいている」も「あけてある」も「열려 있다」[jollje itda] または、「열려져 있다」[jolljočo itda] のように「있다」[itda] だけを用いるし、受身文になっているのである。

今までのことを形態の面と意味の面で図にしてみると、次のようである。

▽形態面

	日本語	韓国語
自動詞	あく	×
他動詞	あける	열다[jolda]
自動詞の受身	×	×
他動詞の身受	あけられる	열리다[jollida] 열려지다[jolljočida]

▽意味面

	日本語	韓国語
自動の意	あく	열리다[jollida] 열려지다[jolljočida]
他動の意	あける	열다[jolda]
受身の意	あけられる	열리다[jollida] 열려지다[jolljočida]

「自動と受身」「他動と使役」が、意味的な面でお互いに相通じているため、区別が曖昧であるということを、ここでも見ることが出来ると言えよう。

特に、韓国語において能動態動詞とそれに対応している受身態動詞とは一対一の関係ではないことがわかる。受身態動詞が表わしている意味を、能動態動詞の意味から引き出せない部分、つまり、受身形だけが持つ特異な意味もあり、能動態動詞だけが持つ特別な意味もあるということである。

次に「かかる・かける」の例を考えてみよう。

①（　○　）壁に絵がかかっている。
②（　○　）壁に絵がかけてある。
③（○～△）壁に絵がかけられている。
④（　×　）壁に絵がかかれている。

(i)（○）벽에 그림이 걸려 있다[bjoke kilimi kollje itda]
（壁に絵がかけられている）

(ii) (○) 벽에 그림이 걸려져 있다[bjoke kilimi kolljočjo ida]
(壁に絵がかけられている)

(iii) (×) 벽에 그림이 걸어 있다 [bjoke kilimi kolo ida]
(壁に絵がかけてある)

「かかる・かける」の場合も「あく・あける」の場合と同一であって、韓国語では「かける」に相当する他動詞「걸다」[kolda]は存在するが、「かかる」に相当する自動詞は存在しない。したがって、他動詞「걸다」[kolda]の受身形である「걸리다」[kollida]あるいは「걸려지다」[kolljočida]を用いることになるのである。

しかし、「걸리다」[kollida]と「걸려지다」[kolljočida]の場合は、用法上の違いが見られる。「걸려지다」は「걸다」の二重受身であり、「걸리다」は接尾辞「리」の付いた受身形であるが、この「걸다」は「걸리다」の受身形動詞としての意味以外に、独特な使い方があるので注目すべきだろう。例えば、次のようである。

▽철수가 이 책을 읽는데 일주일 걸렸다[čʰolsuka i čʰekil ikninde ilčuil kolljotda]
(チョルスがこの本を読むのに一週間かかった)

▽철수는 감기에 걸렸다[čʰolsunin kamkie kolljotda]
(チョルスは風邪をひいた)

▽용돈을 못 주어 보낸 것이 마음에 걸린다[jogdonil motčuo bonenkosi maime kollinda]
(おこづかいをあげないまま行かせたのが気にかかる)

もう一つ、受身形と相との関係において、考えておきたいことは、客観的な言い方を示している類の語が多いことである。新聞・ラジオ・テレビ等のニュースのような報道文とか、論文のように客観性が強く要求されている文章によく用いられている言葉がある。

▽云われている　▽行なわれている　▽囲まれている
▽恵まれている　▽考えられている　▽期待されている

等の類であるが、これらは韓国語でも同じ現象が見られる。このような現象は、両言語とも動作の行為者が明らかでないか、または、それに関心がない場合、単なる状況説明として受身形と「テイル」とが結びついて用いられやすいことを語るように思われる。

五、使役表現との関係において

韓国語においては、受身の接尾辞と使役の接尾辞が同じであることは前にも言及したとおりである。これの外に使役表現には、接尾辞「우/u」とか、補助動詞「게 하다」[kehada]あるいは、使役の意味を表わす「시키다」[sikʰida]等もあるが、ともかく、受身と使役の接尾辞が重なっているということは、事物の受身的な事がらと使役的な事がらとがお互いに表裏として存在していることを示唆しているのであろう。

日本語における受身表現と使役表現との関係を、次のようないくつかの表現形式に分けて、意味の差をくらべてみることは興味深いことである。

▽～れる・られる
▽～せられる・させられる

▽〜させてもらう
▽させていただく

受身との関係を考えているのであるから、「〜させてやる・〜させてあげる」にはここでは言及しない。右の形式に例を当ててみよう。

(1)弟にお菓子を食べられた。（食べられてしまった）
(2)友人にむりやり酒を飲まされた。（飲ませられた）
(3)お正月、ひさしぶりに里帰りして母さんにおいしいものを食べさせてもらった。
(4)かってながら本日は休ませていただきます。

これらは、話し手の気持ちが非常によく表われている表現形式であろう。(1)は受身文として、(2)は使役の受身文として、(1)(2)ともに迷惑・被害の気持を表わしているが、(1)における「食べる」行為の主体は弟であるのに対して、(2)における「飲む」行為の主体は話し手自身であることが違うところであろう。また(3)は使役形に補助動詞「モラウ」が付いた文であって、迷惑の気持はなくなり、感謝の意を表わしているし、行為の主体は話し手である。(4)の「店を休む」行為は話し手自身であって、単なる「休む」というところを「休ませていただく」というふうに、くるりとまわった表現を用いているのは面白い。

右の例(1)(2)(3)(4)ともに、個々の特性にとんだ表現であるが、このような表現形式は、韓国語には存在していない。ことに、(2)のような「使役形の受身」は話し手のこまかいニュアンスが短く簡単に表現できると思われる。「いやであまり心が進まないことを、しかたなくさせられるままに、そうするしかなかった」という気持ちを一言で言えるからである。

韓国語には、このような表現形式がないため、(1)(2)(3)(4)四つとも能動態の文を使い、直接的に表現する方が自然な感じを与えられるのであって、比較的にものをはっきり言う傾向が見られると思われる。しかし、(1)の場合は「〜テシマウ」に相当する「〜쏘보리다」[**hebolida**]の形式がよく使われるようである。

反面、日本語とは逆に、韓国語では「受身形の使役」に相当するような表現が不自然に感じられない場合がある。次の例文は、受身の使役を用いた文としておかしくない、自然に感じとれる文と言えるだろう。

①큰 고기가 잡히게 하소서／[**k'ün kokika čapike hasoso**]
①'큰 고기가 잡혀지게 하소서／[**k'ün kokika čapjočike hasoso**]
（大きな魚がつれるようにして！）
②죄가 씻겨지게 하다[**čφka s'itkjočike hada**]
（罪が洗われるようにする）
③청문당하게 하다[**čʰaŋpidaŋhake hada**]
（恥られるようにする）

①①'は「大きな魚がつれるようにしてください」という意味で、①は受身の接尾辞に②は二重受身形に、使役を表わす「게 하다[**ke hada**]（させる）」が付いている。日本語に仮に当ててみることにすれば「つられさせる」となる。②は「洗われさせる」③は「恥られさせる」のようになるので、これらを一般化するにはまだ問題があるが、日本語の「させられる」の逆の形である受身の使役表現が、韓国語に存在するということは何を意味するのか、興味深

いことである。

使役と受身とは、うらおもての関係にあるようで、結局同じことを意味することになる。次の例文から考えてみると、

▽この手紙が彼に読まれる

▽この手紙を彼に読ませる

いずれも、いわゆる深層的意味が、「彼が手紙を読む」ことである点で同じである。したがって話し手が何に重点をおいて表現しようとしているかによる表現の違いにすぎないと言えるだろう。受身の例の場合は「手紙」に使役の例の場合は、手紙を読むようにしむけたものがあることに、単なる他動詞の場合は動作主体に、それぞれ重点をおいているということの違いであろう。

これは聞き手にニュアンスの差として受けとられることになるが、どの表現を用いるかはその時その時によって異なるものであって、表現の目的によって使い分けられるものである。また、次のような例から考えられることも注意しておきたいと思う。

(1)雨が遠足をのばした。

(2)雨で遠足がのびた。

(3)雨で遠足がのばされた。

右の三つの中、一般にもっとも普通の表現は(2)であろう。(3)も使わないではないようだが、(1)は欧文翻訳調で、普通には使われないと言えるだろう。これは表現の違いによる自然さ・不自然さと文法とは別に考えた方がよいということの一例であろう。

六、主語との関係において

(1)①彼がこんな姿を見たらはずかしい。

②彼にこんな姿を見られたらはずかしい。

③こんな姿が彼に見られたらはずかしい。

(i) 그가 이런 모습을 보면 부끄럽다[kŭka ilon mosŭbil bomjon buk'ŭlobda]

(ii) 그에게 이런 모습을 보이면 부끄럽다

[kŭeke ilon mosŭbil boimjon buk'ŭlobda]

(iii) 이런 모습이 그에게 보여지면 부끄럽다

[ilon mosŭbi kŭeke bojočimjon buk'ŭlobda]

(2)①彼女がその事実を（ダレカ〈）知らせるとこまる。

②彼女にその事実を知らせられると／知らされると、こまる。

③彼女にその事実が（ダレカカラ）知らせられると／知らされると、こまる。

(i) 그녀가 그 사실을 알면 곤란하다

[kŭnjoka kŭ sasilŭl almjon konlanhada]

(ii) 그녀에게 그 사실을 알리면 곤란하다

[kŭnjoeke kŭ sasilŭl allimjon konlanhada]

(iii) 그녀에게 그 사실이 알려지면 곤란하다

[kŭnjoeke kŭ sasilŭl alljočimjon konlanhada]

右の例(1)(2)から考えてみると、日本語で普通使われる受身表現とは②であって、③はあまり用いられていないようである。また、

例(1)の②と(2)の②における助詞「に」には違いがある。(2)の②は、「だれかによって彼女に知られる」というふうに方向を意味する場合と、「彼女が」または「彼女から」だれかに知らせるという意にもなりうるとのことである。つまり、処格助詞「に」が動作主を表わすことになるのである。

しかし、これに対応する韓国語の場合は、例(1)と(2)で見られるように、処格助詞「에게」[eke] は方向を示し、行為者を示してはいない。目的格「を」は使役態と、主格「が」は受身態との結合が強く、使い分けされているようである。

なお、日本語の助詞「を」を取る受身文においては「被害・損害・めいわく」などを被っていることを表わす場合がほとんどであるが、利益を受けていることを表わすことがないとは言えない。例えば、

▽本田さんは先生に娘をほめられた。

のように動詞本来の意味から、めいわくの気持ちになりにくいような場合があると言えるだろう。

助詞「は」「が」と受身文との関係においても主語の問題が出てくる。能動態を受身態に、受身態を能動態になおすとき、助詞「は」と「が」の変化がおこるようである。

(1)ぼくは大きな犬にかまれた。
(2)大きな犬がぼくをかんだ。
(3)私は見知らぬ人に話しかけられた。
(4)見知らぬ人が私に話しかけた。

右の例のそれぞれの文の主語と見られる語に付いている助詞に注意してみると、受身文には「は」が、能動文には「が」が使われている。受身文(1)と(3)を助詞「は」のかわりに「が」にしてみたら、きわめて不自然になるし、能動文の(2)と(4)を助詞「が」のかわりに「は」としてみたら抽象的な感じがして、現実感がなくなるようになってしまう。このような使いわけは「は」と「が」の使いわけのむずかしさをのぞかせているのであるが、これらの文を韓国語におきかえてみると、助詞においてはまったく同じ現象がおこる。日本語の「は」に相当するのは「은」[in]「는」[nin]、「が」に相当するのは「이」[i]「가」[ka] があるが、その使いわけは、受身文については同じようである。

くりかえして言うが、日本語における受身表現とは、単なる能動文の入れ替えではなく、話し手の気持の表現だと思われる。

▽大工によって家が建てられた。
▽本が買われる。
▽料理が作られる。

というような表現は普通あまりしない。また、

▽演奏がはじめられた。
▽親鳥によって卵が生まれた。

というよりも、

▽演奏がはじまった。
▽親鳥が卵を生んだ。

と言うほうが普通のようで、「だれかによって」が含まれているような表現はあまり好まれない。すなわち、「受身」とは日本人にとって、自分の意志が何も介入していないのに、ある動作が成立することを意味するようである。

七、まとめ

どんな言語にでも、個別的な特殊性と、言語一般の普遍性とがあるだろうから、日本語と韓国語における、受身表現についての検討も、この二つの面を考えなければならないことは言うまでもなかろう。これまで見てきたように、受身表現だけについても両言語には、かなりの相違が存在することが分かる。

本稿では漢語をなるべくさけて、現代語における和語と韓国語との対照になったようではあるが、もっとも著しい違いを、いくつかにまとめてみると次のようになるだろう。

▽日本語の受身は自動詞・他動詞をとわずほとんどあらゆる動詞に適用できるのに対して、韓国語における受身表現とは、動作主と客体との相関関係を表わす、いわゆる他動詞についてのことを意味するところから、結局印欧語等での被動態に近い性格を持っているようである。

▽文法形式においては、日本語の「れる・られる」は韓国語の受身表現の多様さや不規則的なこととくらべて、ずっと規則的・生産的であるようである。

▽日本語の受身表現の特徴として、特に目立つのは迷惑の受身、使役形の受身等であろう。これらは韓国語に成立していない。

▽日本語においては、一応使役の文なのか受身の文なのかは明白に分かるのに対して韓国語においては、ある文が受身文とも使役文とも解釈される曖昧性を持っている。

（注1）音韻表記は「뫼우」[houu] 氏の一九七八年「国語音韻学」（평음사 出版）によるものだが、私なりにやや簡略した。

（注2）「受身」を韓国語の文法用語では「被動」とするので、本稿では受身と被動を同じ意味で使った。

〔参考文献〕

時枝誠記一九五〇『日本文法口語篇』「受身」岩波全集一一四

石垣幸雄一九五八「現代日本語の受身」『名古屋大学文学部言語学談話会会報別冊一三』

阪倉篤義一九七五―一「日本語的な思考―受益態をめぐって―」『言語』

井上和子一九七六―一二「日本語に変形は必要か2」『言語』

寺村秀夫一九七七「受身について」『日本語と日本語教育―文法篇―』文化庁

柴谷方良一九七八『日本語の分析―生成文法の方法』「受動文」大修館書店

宮地　裕一九七九『新版文論』「類義文」明治書院

李　文子一九七九「朝鮮語の受身と日本語の受身その1」『朝鮮学報九一』

大村益夫一九七九「日本語、朝鮮語の表現について―受身と使役―」『講座日本語教育第一五分冊』

李　相億一九七〇「国語의 使動・被動構文研究」『国語研究二六号』서울大学校

成　光秀一九七六「国語擬似被動文」『関東大学論文集4輯』関東大学

成　光秀一九七六『관용연구3』「국어간접피동의 문제점――피동조동사「지다」를 중심으로」（「国語間接被動について―被動助動詞[zida]を中心に」）

李　基東一九七六「韓国語被動形分析의 検討」『人文科学論叢九輯』建国大学校人文科学研究所

朴　良圭一九七八「使動과 被動『国語学士』国語学会

仕　洪彬一九七八「国語被動化의 意味」『震檀学報四五』

（本学大学院後期課程一年）